

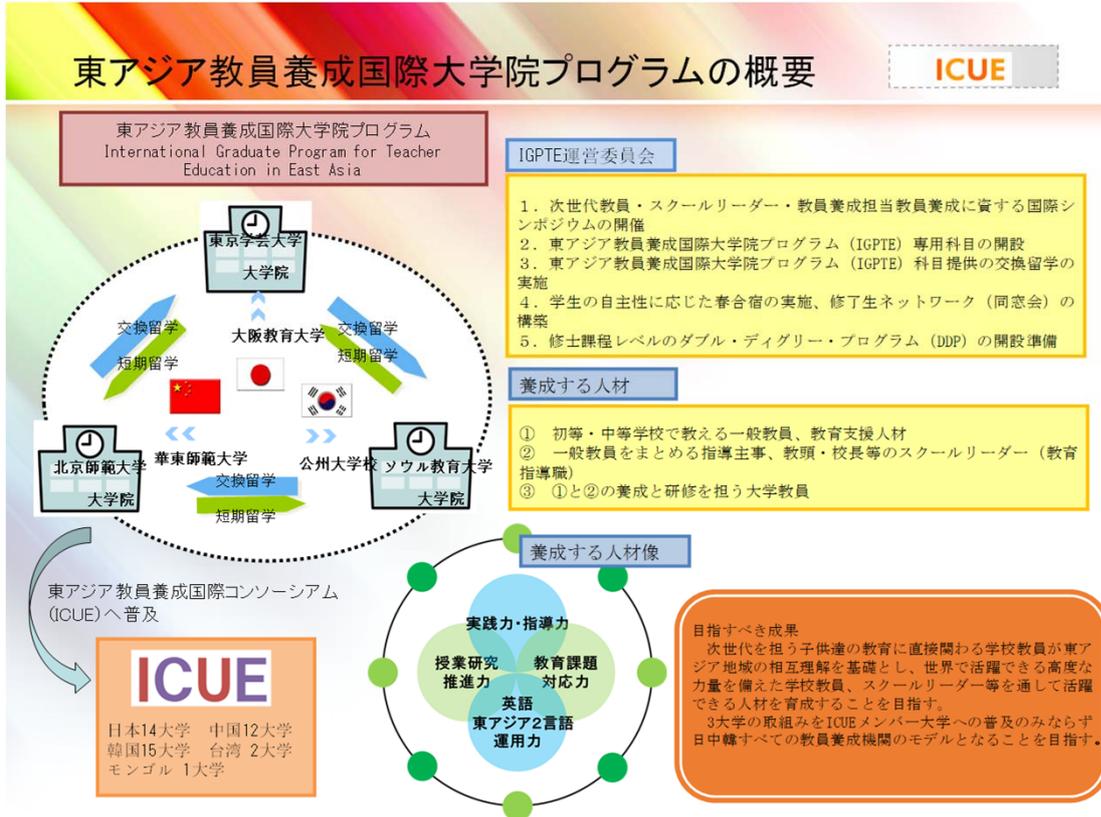
大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 東京学芸大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度28年度・タイプA-②) CAMPUS Asia)

東アジア教員養成国際大学院プログラム

【事業の概要】

「東アジア教員養成国際大学院プログラム」(略称IGPTE)は、日中韓の教員養成大学の拠点である東京学芸大学・北京師範大学・ソウル教育大学校が共同して、教員養成大学ならではの各種プログラムを構築し、教員養成における「キャンパス・アジア」を目指すものである。今回3大学は東アジア教員養成国際コンソーシアム(略称ICUE、加盟校44校(2018年5月))の実績をふまえ、キャンパス・アジア事業を通じて、格段の国際化、交流の活性化を実現する。



【交流プログラムの概要】

下記4つの人材像の伸長を目的とする短期プログラムの実施、ICUEシンポジウム等学会における大学院生の研究発表、大学院生の専門性に応じた指導教員の選定、高度な研究指導の実施、半年・1年の長期留学、キャンパス・アジア・ネットワークと同窓会組織の構築、そして修士レベルのダブル・ディグリー等を通じて、世界で活躍できる高度な力量を備えた学校教員、スクールリーダー、教育研究者の養成に向けた質の高い教育を提供する。

【本事業で養成する人材像】

IGPTEの人材像は①高度な知識教養に裏打ちされた実践力指導力、②東アジアの学校教育において生起する複雑かつ多様な諸課題への対応力、③日中韓が世界に誇る授業研究力、④東アジアから世界で活躍できる人材に必須の英語力・東アジア2言語を身に付けることである。

【本事業の特徴】

教員養成分野で唯一採択された「国家プロジェクト」としての意識の高さは、3大学に共通するものである。各国の「お国柄」をふまえつつ、グローバル化対応に関する教員養成に固有の問題状況を整理し、本事業に取り組む。

【交流予定人数】 <タイプA-②>

	H28	H29	H30	H31	H32
日本(J)での受入	C3 K3	C8 K8	C9 K9	C9 K9	C9 K9
中国(C)での受入	J3 K0	J8 K0	J9 K6	J14 K6	J14 K6
韓国(K)での受入	J3 C0	J8 C0	J9 C6	J14 C6	J14 C6

1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【東京学芸大学】

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-②) CAMPUS Asia))

東アジア教員養成国際大学院プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

韓国側において、CAMPUS Asia - Winter Program for Trilateral Cooperation 2017.2.5～2.18(WPTC)が企画され、東京学芸大学2名と北京師範大学15名の大学院生がソウル教育大学校を2週間訪問し、研修プログラムに参加した。北京師範大学において報告会も開催された。

学芸大から北京師範大学には1年間の予定で3名の学生を派遣した。



〈WPTCの場面、ソウル教育大学校〉



○ 外国人留学生の受入

東京学芸大学では、当初の年度計画を超える9名の中国側ICUE加盟校(うち北京師範大学3名)の学生、2名の韓国側ICUE加盟校等から学生を受け入れた。プログラム参加受入れ学生には、キャンパスアジアの人材像を育てる留学生科目を各学期1科目提供した。また春季に学生の自主性に基づく春合宿を開催した。

<タイプA-②>

	H28
日本(J)での受入	C9 K5
中国(C)での受入	J3 K0
韓国(K)での受入	J2 C15

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

北京師範大学、ソウル教育大学校と、教育組織、教育課程、単位算定、成績評価の方法及び学位授与方針等に関し協議を行うとともに、国内外の他大学の先行事例調査を行い、DDプログラム実施に向けた検討を行った。

本学における学習成果に対する単位付与については、派遣学生・受入学生に対するもの、短期・長期のものなど、複数の層に分けて考えていく。

このうち、長期受入れ学生については、留学生センター提供の留学生科目だけでなく、学部・大学院の正規科目も学生の日本語能力に応じ受講を認めている。こうした正規科目の質は教員養成カリキュラム改革推進本部と教務委員会が認める科目ということで保証されている。

単位を付与しない短期プログラム等は、プロセス評価、形成的評価、パフォーマンスに基づく評価(ルーブリック・ポートフォリオを含む)、アウトカム評価等を組み合わせ、プログラムの質保証と質向上に向けた取組に活かす。



〈受入れ学生の春合宿 日光にて〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のために、キャンパス・アジア事業に専従する専任教員(コーディネーター)1名と常勤職員1名を平成29年度から配置するための準備を進めた。また大学院・学部の教育課程と国際関連活動の双方をつなぐ戦略的な取り組みとして、全学組織としてキャンパス・アジア推進室を位置づけ学生支援を行い、ダブルディグリー等大学院の国際共同教育に対応するキャンパス・アジア事業推進委員会を立ち上げる準備を行ったところである。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

東京学芸大学はキャンパスアジアを通じて、国際化を大きく前進させる計画である。長年の懸案であった受入れ学生の対応を充実させるべく、コーディネーターを配置し、きめ細やかな学生指導を実現することとした。また人材像に掲げる高い語学運用力を可能とする、留学準備をかねた言語ラボもまもなく開設する予定である。

SNSを活用した学生ネットワークの構築等も進めるとともに、専用ウェブサイトを早期に立ち上げ、情報公開と成果の普及に役立てる。



〈受入れ学生の授業場面
小石川植物園にて〉

■ ゲッドプラクティス等

東京学芸大学ではキャンパスアジアの受入れ学生に対し、留学生科目「日本の教育と文化」や「東アジア教師論演習」といった科目を通じて、人材像育成と学生間の交流に貢献している。また派遣学生の開拓のために、平成29年度から学部正規科目に「学芸フロンティアB」(留学のすすめ)を開設し、留学の意義や計画の立て方等を学ぶ機会を提供する。

2. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【東京学芸大学】

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-②) CAMPUS Asia)
東アジア教員養成国際大学院プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

北京師範大学、ソウル教育大学校との間で、教育大学の特色を活かした短期語学・文化研修プログラムや交換留学プログラムなど、多彩な相互交流プログラムを実施し、当初計画数を上回る交流を実現した。



〈北京師範大学への交換留学〉



〈ソウル教育大学への夏季短期留学〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

東京学芸大学から北京師範大学に3名(2017年9月から2名、2018年2月から1名)、ソウル教育大学に3名(2017年9月から1名、2018年3月から2名)を、それぞれ交換留学生として派遣した。

また、夏季・春季にそれぞれ北京・ソウルへの短期語学・文化研修プログラムが企画され、北京には夏季4名、春季6名、ソウルには夏季6名、春季5名の日本人学生が、それぞれ参加した。

2017年6月にはソウル教育大学主催の東アジア教員養成国際シンポジウムにおいて修士課程学生がポスター発表を行った。

○ 外国人留学生の受入

交換留学生として、春学期・秋学期合わせて、中国側ICUE加盟校から15名(うち北京師範大学5名)、韓国側ICUE加盟校から10名(うちソウル教育大学から5名)を受け入れた。プログラム参加受入れ学生には、昨年に引き続き、キャンパスアジアの人材像を育てる留学生科目を各学期1科目提供し、1年間のプログラムの締めくくりとして最終発表会も実施した。また夏季・春季にそれぞれ学生の自主性に基づく合宿を開催した。

2017年7月には東京学芸大学がSummer Program for Trilateral Cooperation (SPTC)を主催し、中韓の大学院生計10名が、日本の教育について共修し、学校における交流活動や日本文化体験を行う機会を提供した。

<タイプA-②>

	H29
日本(J)での受入	C24 K18
中国(C)での受入	J13 K1
韓国(K)での受入	J15 C24

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本事業のキャンパス・アジアプログラムは短期研修・交換留学・DDプログラムの3種から構成される。東京学芸大学、北京師範大学及びソウル教育大学校の3大学は、教育組織、教育課程、単位認定・互換、学位授与方針等に関し繰り返し協議を行うとともに、国内外の先行事例をも参照の上、DDプログラム実施に向けた検討を進めた。キャンパス・アジアプログラムの概要や学生の声はホームページやリーフレット等の媒体を通じて公表しており、内部質保証が適切に行われていることを外部に示している。



〈受入交換留学生最終発表会〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のために、2017年度、キャンパス・アジア事業に専従する専任教員(コーディネーター)1名と常勤職員1名、非常勤職員1名を配置した。また大学院・学部の教育課程と国際関連活動をつなぐ全学組織としてキャンパス・アジア推進室と事業委員会を立ち上げ、プログラムの開発・運営を行うとともに、受入れ・派遣学生の交流・学習スペースとしてキャンパス・アジアラウンジを新設した。



〈受入交換留学生夏合宿 山梨〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

東京学芸大学はキャンパスアジアを通じて、国際化を確実に前進させている。中韓への長期・短期派遣学生数は増加傾向にあり、受入れ学生の満足度も向上している。2016年度の交換留学受入れ・派遣学生の研修成果は『研修レポート集』として発行され、事業の情報を公開・普及している。ホームページでは、交換留学で中韓に派遣中の学生が留学通信を定期的に発信し、受入れ学生の合宿レポート等も公開されている。

■ グッドプラクティス等

東京学芸大学ではキャンパスアジアの受入れ学生に対し、留学生科目「日本の教育と文化」や「東アジア教師論演習」「アジアの教育演習」といった科目を通じて、人材像育成と学生間の交流に努めている。また派遣学生のために、2017年度から学部正規科目に「学芸フロンティアB」(留学のすすめ)を開設し、留学の意義や計画の立て方を学ぶ機会を提供している。大学院生には3大学でCA指定科目の受講を求めている。



〈SPTC 日本文化体験〉